徳島大学二次試験　解答速報　国語

第1問

問1　①赴　②繰　③体裁　④踏襲　⑤兆

問2　イ　問3　A エ　B オ　C ウ　D イ

問4　始めは読む気もあって丁寧に読んでいるが、巻が進むと集中力もなくなり、飛ばして読んだり、果ては読まなくなったりするという、よくある人間の姿を想像したから。

問5　ページが右向きにめくられる時に、まず視線は指の置かれた左下に進み、右にめくられた直後、視線も右上へと動き、そして右下へと進む流れ。

問6　ア・エ

第2問

問1　科学の進歩には限界があるか否かということを議論せずに、自然現象の中の、科学に適した特殊な問題だけを抜き出して、解決していることを忘れて、全ての問題が科学で解決できると思い込んでいること。

問2　誰が測定しても、何べん繰り返しても同じ結果が数値であらわされるという再現可能の原則が存在し、また人々もそれを信用して受け入れていること。

問3　科学における測定は、誰が何度繰り返しても同一条件下で同じ結果をもたらしてこそ意味があるのであり、同じものを使用して再現できないものは科学の測定とはいえないから。

第3問

問1　①どんな前世からの因縁なのか　②長年の積もるお話があって
③次第に仏道修行に入り　④今の様子が知りたくて、しみじみと

問2　しみじみと同情してお聞きになる方もおり、他には、不幸なことに縁談に失敗したのだと嘲笑する人も多かった。

問3　帝から出家のための退官の許可が下されない間は、中将は剃髪をせず、在家の姿を保ったままで修行を行ったということ。

問4　涙を流している状態。

問5　a 憂　b 寝

問6　申し・連用形　参ら・未然形

第4問

問1　①つねに・いつも　②ことに・とりわけ　③いづくに・どこに　④わたくしする・好き勝手にする

問2　ア　問3　去

問4　磨崖碑を取り去って自身の名を刻み付けるのが「欲彰名」で、後の人に磨崖碑を見られなくするのが「得罪名」である。

問5　山林にあれば誰のものでもなく、皆に賞愛されるようになるので、永く存在し続けられるが、人の家にあれば私有物になるので、持ち主の勝手で、失われてしまいやすい。